なんで家にいないといけないのかを、わかるように伝える

佐藤恵子

私たちは、京都大学で生命倫理の研究や教育に関わっている教員で、日ごろ、生病老死にまつわる課題を扱っています。患者さんに治療や臨床研究を受けてもらう際にどのような説明をしたらわかりやすいかなども研究の対象にしています。2019 年末から海外で流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、日本でも翌年の 3 月ごろから感染者が増加し、抑え込むための方策が必要となりました。このウイルスは、感染して症状が出る前から他人に感染させる可能性がある、無症状の人も多い、という特性もあり、すでに市中には感染者が大勢いると考えられますので、対策は古典的な「人との接触機会を減らすこと、手洗いをすること」が第一で、みなさんに実行してもらう必要があります。

「三密を避ける」だけでは、足りないかも

市民に対する説明として、流行の初期に閉鎖空間で複数人が感染する「クラスター感染」が多かったため、「密閉、密集、密接の三密を避けること」が強調されて伝えられましたが、これには、以下のような課題があると思われました。

・「〇〇を避けよ」という指示のみでは「どうだったらよいのか」がわかりにくく、「何をどうする」を説明した方がよい
・三密を避けるのはクラスター感染を避けるための一法なので、対策の根幹である外出自粛、手洗い・マスク装着なども伝える
・「なぜ外出自粛が必要か」という理由の説明がなく、納得が得られにくいので、「ウイルスはすでに市中に広がっており、拡散を阻止するために接触機会を減らす必要がある」という背景を説明する

自ら動いてもらうために

また、人に行動してもらうためには、「家にいろ」と強制する方法と、自ら動いてもらう方法がありますが、いい年をした大人が対象であれば、自ら動いてもらうのがよさそうです。そして、人に自ら動いてもらうには以下の条件があります。

・納得してもらって、「んじゃ、やったるか」「しゃあないな」と思ってもらうこと
・自分がやらないといけないと思ってもらうこと
・無理なくできること（なので、休業が必要なら生活に困らないための補助が必要）
・それをすると、得になったり、楽しいと思えること

これらのうち、無理なくできるための対策は行政に、楽しむ工夫は各自にお願いするとして、外出自粛や手洗いなどをしてもらうには「なぜそんな退屈で、直接の得にもならないことを、この私がやらなくてはいけないのか」という部分に納得してもらうことが肝要です。そのためには、「ウイルスの拡散を阻止する」という最終目標の大切さに共感してもらうことが必要になりますので、このあたりを説明する文書「新型コロナを追っ払おう」を作成することにしました。文書では、以下を論理立てて説明し、「うつらない・うつさない」をミッションとして、具体的な行動を「作戦」としてまとめました。

・ウイルスは市中に広まっている状態であること
・誰もが感染している可能性があり、人にうつす可能性があること
・ウイルスの拡散を阻止する必要があり、それには人の接触を断つ必要があること
・具体的には、家で過ごす、人と距離を取る、マスクや手洗いをすること
・対策がうまくいけば、ウイルスによる被害を最小にしておけること

文書の対象は、中学生くらいの読み書き能力があり、苦痛なく新聞や雑誌を読める人になりますが、ウイルスの特性が理解できれば、「何をすればよいか」は考えればわかるので、活動の自由度が上がるように思います。みなさんが、少しでも穏やかに日々を過ごすのにお役に立てればうれしいです。

また、お忙しいところ、監修してくださった宮沢孝幸先生と井村春樹先生をはじめ、ご協力くださったみなさまに感謝いたします。

2020 年 4 月 29 日